

【研究課題名】 551 胸部・胸腹部大動脈瘤手術における運動誘発電位に関する研究

【実施責任者】 麻酔科学教室 教授 川口 昌彦

【実施分担者】 麻酔科学教室 学内講師 林 浩伸  
中央手術部 学内講師 田中 優

### 【研究の意義】

胸部・胸腹部大動脈瘤手術では術中術後に脊髄血流の低下から対麻痺を発生する場合があります、社会的に重大な問題となっている。術後対麻痺予防のため、術前からの脊髄血流の同定、大動脈遮断末梢側の還流、低体温、脊髄ドレナージ術、運動誘発電位モニタリングなどが、盛んに行われている。動誘発電位モニタリングは施行可能だが、体温、体外循環、大血管遮断などにより影響を受けるためその精度については改善する必要がある。

### 【研究の目的】

周術期に視機能障害が発生する可能性がある人工心肺を併用した予定心臓血管外科手術後に、視覚に関連した健康関連 QOL の変化を検討する。

### 【研究の方法】

研究デザイン：多施設レトロスペクティブコホート研究

研究対象者：2001年1月から2011年12月の間に、胸部・胸腹部大動脈瘤手術をうけた成人患者。術後データとして運動機能の記載がないものは除外する。

研究方法：術後予後に関しては、最終通院日記録で解析し、その他のデータは手術後初回退院まで解析する。術前、術中、術後院内因子について、単変量解析および多変量解析を組み合わせて検討。匿名化した状態でデータをデータセンターに集積し解析する。目標登録症例数は約1,000症例である。

### 【研究機関名】

奈良県立医科大学 麻酔科学教室・東京大学麻酔科・信州大学麻酔科・東京医科大学麻酔科・国立循環器病センター麻酔科・小倉記念病院麻酔科・琉球大学麻酔科・山口大学麻酔蘇生科・鳥取大学麻酔科・札幌医科大学麻酔科・北海道大学麻酔科・名古屋大学麻酔科・防衛医大麻酔科

### 【個人情報の扱い】

個人情報については、患者情報を外部ネットワークから遮断されたコンピューターで入力管理する。各症例で統計整理番号を割り付けし、統計学的処理は、患者ID、氏名、生年月日を削除し、別ファイルを作成したうえで、連結可能匿名化情報として、別のコンピューターにておこなう。

### 【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者：麻酔科学教室 川口 昌彦

〒634-8522

奈良県橿原市四条町 842

TEL 0744-22-3051